



チェンマイ英語教育視察



タイは近年英語教育に力を注いでいる国である。1996 年より小学校 1 年生から英語の授業が行われていて、イマージョンプログラムで英語教科の他に数学・科学・体育が英語で授業がなされていると聞いていた。しかし、タイで第 2 の都市チェンマイでは事情が違っていることが分かった。

チェンマイの中心部にある公立小中学校 Wat Sridonchai Municipality School を視察させていただいた。外国語学科には 4 人の先生がいて、3 人は小学校を担当し、学科長の Saokamkate 先生が中学を担当している。

学校は 2 学期制で、1 学期が 5 月～10 月、2 学期が 11 月～4 月だが 4 月はお休みになる。英語の授業は 1 年生から 6 年生まで週 2 クラス行われる。7 年生から 9 年生は週 3 クラス行われる。他の教科が英語で教えられているイマージョンプログラムは実施されていなかった。

訪問をした日は 2 学期の最後の週でテスト週間であった。チェンマイでは初めてインターネットによるテストが行われた初日であった。チェンマイにある 11 の学校は今回任意の学年を選んでインターネットテストを実施していた。この学校では 3 年生がインターネットで受験をし、他の学年はペーパーテストを実施していた。



3 年生は 2 クラスあり、1 クラスあたり 1 日半の日程で、12 教科のテストを実施した。1 日目は 8 教科で次の日にあと 4 教科のテスト実施だった。コンピュータールームで 1 回に受験できるのは 1 クラスのみである。この時は 28 人の生徒がテストを受けていた。先生はテストの結果をタブレットやスマホで即座に見ることが出来る。来年度からは 5 科目だけインターネットで実施予定である。



英語の先生達はパソコンやタブレット、スマホを使いこなしていたが、英語の教室にパソコンがあるものの、プロジェクターがないのが問題だと言っていた。

この学校の先生達の自分の子供たちは私立の学校に通っている。生徒の半分は山岳民族で、イスラム教徒が 3 分の 1 いる。入学するときにタイ語がわからない生徒が多い。公立は 1 学期で無料～2,500 バーツ(約 8,000 円)で、私立は最低 15,000 バーツ(約 48,000 円)かかり、英語プログラムだと最低 50,000 円(約 160,000 円)掛る。生徒の多くは貧しい家庭から来ている。

学校給食はチキンを使用し、イスラム教徒にも提供しているが、彼らの多くは家庭から弁当を持参し、学校給食を食べない。

英語の読み方がタイ語の読み方と違うので、間違った発音になりやすい。話すのがまだまだ出来ない生徒が多い。国としては英語に力を入れているが、英語を話せる人が少ないし、学校の英語のレベルも日本同様低いようである。

今回の視察では、突然の訪問にもかかわらず、快くクラスに招いていただき、多くの時間を割いて説明をしてくださった。同時に日本への好意を感じる事が出来、よい交流になった。



タイ・チェンマイ学校視察 (2016/03/15)
あぜりあ Language School 校長勝山ひとみ